

たくさんのご本の寄贈ありがとうございました。

千葉・山田恵子様／東京・内田純平様／東京・偕成社殿／東京・樹立社殿／東京・図書館流通センター殿／伊豆高原・わらべ絵館殿／セラ出版（小川悦子）殿

以下は会員のみなさんです。

中西景子様／森川理恵様／今井郁子様／山末やすえ様（童話作家）／厨子靖恵様

★いただいて失念している方がありましたら、お申し出ください。

☆☆文庫あれこれ☆☆

- ◆ 3月の文庫は花曇ならぬうす曇りのようです。（印刷しだす前に、まあ何と雪です！雪がふってきました）
- ◆ 昨日、河津町のボランティア講座に行ってきました。一足先に咲き誇った河津桜はすでに青々とした葉桜でした。日頃、何でもないように絵本を選んで、読み聞かせに向かっているのですが、いざ、たくさんの方々に読み聞かせについて、お話するのは大変なことと気づいたのは、前日。文庫のあの本とあの本を持っていこうと探したら、ほとんど借り出されていて（嬉しいことです）。◆一週間前に荒川区立図書館でのおはなしのボランティア講座の時にも感心したのですが、いま、地域では住民のみなさんの活動がさかんで、講座後、河津でも荒川でも講習を受けた人々の受け口が用意されています。◆でも、ボランティアということばの定義はなかなか難しく、志す人も受けとめる組織も途惑うことが多いようです。◆この夏9月末（29、30）に私の所属している親地連（親子読書地域文庫全国連絡会）で、読書に関わるボランティアについての学習会を開きます。関心のある方はご連絡ください。詳細は後日お知らせします。◆有難いことに、沙羅の樹文庫も会員が116名になりました。会員同士の、本を通しての交流も楽しく聴かれます。◆月末のおはなし会に桜が咲いていますように。ぜひおでかけください。（西村）

♥♥イベントお忘れなく！♥♥

「春休み・お花見頃のおはなし会」

《大きい人向け》

3月31日（土）午後3:00～5:00

小学校以上大人まで

おはなしを聴ける人なら小さい人でもどうぞ！

《小さい人向け》

4月1日（日）午前10:00～11:00

幼稚園、保育園、小学校1、2年まで

おひざに抱っこのお友だちもどうぞ！

（通常の文庫の日ではありませんのでご注意ください！）

♥♥語り手は、富本京子、平塚みよ、古市静子、増山正子さんに、男性語り手・富本岱助さんが加わりました。♥♥

どんなお話が飛び出すか聴いてのお楽しみ！

大人も子どももたくさんおはなし聴いて

心を羽ばたかせましょう。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆文庫の時間は土曜日は午後2時～5時

日曜日は午前10時～午後3時

◆（3月31日、4月1日のおはなし会の日
は、基本的に本の貸借はしません。）

◆attention please!

4月は第4土日（21、22日）です。

◆5月は通常の第3土日（19、20日）
開館ですが、若葉の頃のおはなし会（土曜
夕方から大人に、日曜10:00から11:00
子どもに）を開催します。

語り手は東京世田谷の「おはなしのたね」
の皆さんです。

◆毎月開館日の日曜には、子どものための
小さなおはなし会があります。

午前10:00～10:30です。

沙羅の樹文庫だより

No.7

（2007年3月号）



3月になって、冬に逆戻り。

冷たい風が吹いて寒い日が続いています。

それでも、2月開館の折は、

つぼみが少し膨らんでいた庭の河津桜も
留守中にかわいい薄紅の花を咲かせたようで、
今は若緑の葉桜にかわりつつあります。

文庫のお友達も何人か卒園を迎え

いよいよ学校へ船出ですね！

おめでとうございます！

紹介・子どもの本 大人の本

★会員から会員へおすすめの1冊★

(文庫の棚の本を紹介していただいております)

『ミュージカルスパイス (こそあどの森)』

(岡田淳作 理論社刊 1999)

あなたは、「こそあどの森」という森を知っていますか？そこはとても不思議な森……。

私は、こそあどの森シリーズの「ミュージカルスパイス」を紹介します。

ある時、仲良し夫婦のギーコさんとスマレさんが、やけに楽しそうにおどり、大きな声で歌っているのを、この本の主人公スキッパーが見つけます。いつもは無口なあこの夫婦がなんでだろう、と思ったスキッパー。スキッパーはいろいろな事を考えました。

そこで、スキッパーはそのなぞをときます。そしてついに、スキッパーまでもがギーコさんとスマレさんのように……。

さあ、どうしてギーコさんとスマレさんがそうなったのでしょうか？

それから、この本に出てくる歌にも注目してください。「こそあどの森」の住人たちがくり広げるたくさんの歌が出てきます。読んでいる私たちまで口ずさみたくくなるような楽しい歌です。

さあ、歌を歌ったりおどったりしてしまうものの正体とは何なのか？自分まで楽しくなってしまうお話です。ぜひ読んでみてください。(海保 麻衣)

❖踊ったり歌ったりしたくなる秘密って何でしょう、ちょっとのぞいてみたくなりましたね、「こそあどの森」を。小学4年の麻衣ちゃんは、突然のお願いに気持ちよく引き受けてくれました。「こそあどの森」シリーズは、大人でも一度はまったらぞっこんだと友人が言ってます。文庫には、あまりないのですが、少しづつ入れましょう。ありがとう、麻衣ちゃん！

新刊 紹介&寸評

『無銭優雅』(山田詠美著 幻冬舎刊 2007)

愛を描いているようで死を描いている。出会いを描いていると見せて別れを描いている。人と人の距離のとり方を描くことによって人生を描く山田詠美は、今回も憎らしいほど自在である。またまたやられたーという感じ。主人公は、42歳で出会った栄と慈雨。独身同士。つき合って3年になる今も、「私たちってちょっと変?」と思うほど甘え合っている。その甘えぶり、めろめろな様子の描き方がリアル。

上記はネット上、「とみきち」さんの書評の一部です。実は、私、山田詠美を食べず嫌いしていて、今回はじめて読みました。何と書いてあったか忘れたのですが、さる新聞の書評がとてもわが心をくすぐったのです。で、すぐ買って読みました。あ～あ、私、年をとったのかしら。従来、物語主人公にわが身を引き寄せ彼、彼女に乗って物語の世界を旅するのがわが常でありましたが、まったくもって異質な決して自分にはありえない異分子の主人公たちなのに、私、心ほぐれました。何と子守唄でも聴いて揺りかごを揺すってもらっているような(誰がそんなことしてくれるの?)心地よさでした。

気色わるーいと思われる人、騙されたと思って読んでみては？胸のつかえ、肩こりが消えるかも知れませんが。たとえいつときでも。(Anne07)

『一瞬の風になれ』(佐藤多佳子著 講談社 2006)

サッカーに限界を感じた新二と、やる気のない天才スプリンター連。とくに強豪でもない春野台高校陸上部に入部した幼なじみの2人。それがすべての、始まりだった。思わず胸が熱くなる、とびきりの陸上青春小説。(ネット書店の内容紹介)

ガタがきた体に鞭打って？動く身に何とか若い息吹を取り込もうと、『バッテリー』の爽やかさを思い出して読みはじめました。たやすく乗せられ、2巻を買うのが待ち遠しいです。陸上の用語が老いた身には七面倒ですが、老いた身にこそ、お気楽に青春を懐かしむことができますが、もちろん、何か目標をつかみきれていない若者に一押しです。著者はかなりのストーリーテラーのようです。(空・花・颯)

新入庫案内

大人の本

無銭優雅(山田詠美著 幻冬舎) / 名もなき毒(宮部みゆき著 幻冬舎) /

YA(ヤングアダルト)の本

幸福な食卓(瀬尾まいこ著 講談社) / 一瞬の風になれ1(佐藤多佳子著 講談社)

子どもの本

うらしまたろう(時田史郎再話 秋野不矩画 福音館書店) / マーシャと白い鳥(プラトフ再話 出久根育文・絵 偕成社) / かえるくんどうしたの改訂版(ベルジュイス文・絵 清水奈緒子訳 セーラー出版) / ソルビムーお正月の晴れ着 ペ・ヒョンジュ絵と文 ピョン・キジャ訳 セーラー出版) / 地球はメリーゴーランド(まど・みちお詩 南塚直子絵 小峰書店) / だいじょうぶだいじょうぶ いうひろし作・絵 講談社)

『心に緑の種をまくー絵本の楽しみ』(新潮社)

子どもの本、特に外国児童文学の紹介の先達をしてくださった渡辺茂男さん(06.11.18 逝去)は、静岡市出身です。「エルマーのぼうけん」シリーズ(福音館書店) / 「ミス・ピアンカ」シリーズ(岩波書店)ほか絵本、昔話をたくさん日本に紹介、また「寺町三丁目十一番地」「もりのへなそうる」をはじめ創作文学、「しょうぼうじどうしゃじぶた」をはじめとした幼年絵本は、わが子の世代から孫の世代にも読み継がれています。学生時代、先生の楽しい講義を聴いて、私はいつかは文庫をひらこう、と思ったのでした。(西村)